

教宣 せぶん

「 くん、決め手はピラヤで」

どぶいたニュース 161号に株主総会の質疑応答の様子が掲載されました。せぶん 218号では、やり取りではない会場の様子や雰囲気などを伝えたいと思います。私自身、株主総会は初めての出席であり、不思議に思ったことや驚いたことなど、新鮮な感覚をお伝えできればと思います。

会場に入ると、横に27脚並べられた椅子が18列設置されていました。開始時間の10時が迫るにつれ、出席者が埋まっていき、この部屋に出席者を収容できなくなりました。するとサイドのパーテーションが開かれ、新しいスペースが登場しました。この部屋には8脚×18列の椅子が用意されていました。しかし、出席者の「客足」はいつこうに衰えません。しばらくするとこのスペースも株主で埋まりました。ついには後ろのパーテーションが開かれました。ここにも27脚×15列ほどの椅子が用意されていたと思います。株が分割され、求めやすくなったとはいうものの、700名以上の株主が会場を埋めていたと思われる。前年度の株主総会に出席した仲間に聞いてみると去年は200名ほどだったとのこと。やはり今回の株主総会が、株主や社会から大きな関心を集めていたのだと思います。

最初に用意されていた部屋の最前列、27脚のすべてに、背広にネクタイを締めたサラリーマン風の男性がずらりと並んで座っていました。私が入った時には、まだ最初の部屋にも椅子はかなり余っており、大の大人がすし詰め状態で27人横に並んで座っている光景はとても異様に映りました。後でわかったことですが、この株主総会の議案採決はすべて拍手をもって行うものでした。最前列に陣取っていたこの集団は、議長である石原社長が「議案 号はこれでよろしいでしょうか？」と採決の言葉を促すと、一糸乱れぬ大きな拍手を議長に発していました。またその前段では、経営責任を追及する質問が出され石原社長が答えると、その答弁に対して大きな拍手を巻き起こし石原社長を応援していました。ここまで記すとたいがいの方はわかると思いますが、この集団は社員株主の皆さんだったのです。

しかし、冷静になって考えてみると、これだけの大きな不祥事を起し、株主の皆様の問題の原因や経過、経営者の考え方を伝え、お伺いを立てる大事な株主総会に、「味方」を最前列に陣取らせ、「イエス」としか発しない人たちを並べ、大きな拍手を受けるといふ構図はいかがなものかと思います。こういう時局の株主総会だからこそ、経営者は、小細工などせず、もっと純粹に、もっと真っさらな気持ちで、申し開きをする、あるいはこの場に臨むべきではなかったでしょうか？「自由闊達な社風」とは程遠い空気を感じ

じました。

配られた議案に目を通すと、新役員の経歴が掲載されているページがありました。新役員 12 名のうち、旧日動火災出身者は 12 番目に記載されている 1 名だけでした。その役員も入社は平成 12 年 6 月であり、決して「生え抜き」ではない方です。また 8 番目に記された役員は日新火災の取締役社長でした。「ミレア誕生の際にはこういう場面もあったな」と思い出しました。

総会の冒頭、ひな壇に並んだすべての方々が「ご迷惑をお掛けしました」と言って深くと頭を下げました。しかし、トップである石原社長は、会長職に留まり経営陣の椅子に座ったまま、という議案を通そうとしました。

合併前後、元契約係社員の不祥事が明るみになり、再発防止と称して、まさに制度が悪いと言わんばかりの対応策がとられました。担当代理店制度は廃止となり、PDSI シートなるものを書かされ、管理強化が一気に強まりました。名を連ねていた旧日動社の役員は、「この責任を取らされて役員の椅子を追われた」という噂も聞きました。また、ビジネスモデルを出そうとしていた会社が、急に「78 億の費差損があることがわかったので、労使の特別委員会の開催を凍結する」と言ってきた真相は、実はこの不祥事が原因であるともささやかれました。

不祥事のレベルを比べるのもどうかと思いますが、この元契約係社員が起した個人の不祥事件と、今回の保険金不払いに関する不祥事とどちらが会社の信用・信頼を失墜させたでしょう。レベル、規模とも比べものにならないと思います。この個人の不祥事件に対するすべての対応策を決めたのは石原社長だったはずです。「人に厳しく自分に甘い」「日動に厳しく、東海に甘い」と言われても、反論できないはずです。そんな背景から言っても、今回の株主総会にはかった議案は、デタラメな経営姿勢のあらわれだと思います。頭を下げて役員でいられるなら、旧日動社の役員の皆さんもいくらかでも頭を下げたことでしょう。

12 時 12 分に仲間から携帯にメールが入りました。NHK のニュースでミレアの株主総会が取り上げられたというものでした。取材を受けて大田さんが映っていたと書いてありました。ホテルの入口で、大田さんが取材を受けていたことは聞いていましたが、さっそくお昼のニュースに、それも NHK に取り上げられるほど、ミレアの株主総会が注目されていたことに、あらためて驚かされました。また大田さんの株主総会の発言は日経新聞でも取り上げられたとどぶいたニュースに書かれていました。大田さんは一日で日本中に顔と名前を売ったことになります。

その大田さんから 1 週間総行動の中で「肝に銘じておけ」と言われたことがあります。「このたたかひの決め手はな、裁判でも、労働委員会でも、株主総会でも、本社前行動でも、団交でもないで。もちろん、それらは力にはなるがな、決め手にはならん。いいか、決め手はピラヤで」。いくら正しいことを言っても、いくら罵声を浴びせられても、この経営者は、シナリオ通り、マニュアル通りにこの株主総会を乗り越えていきました。「決め手はピラ」。この言葉の真意が腑に落ちた株主総会でした。